

台車の移動性

超高密度植毛、変形しにくいパイルやバックング。
台車の移動が塩ビシート並みにスムーズです。

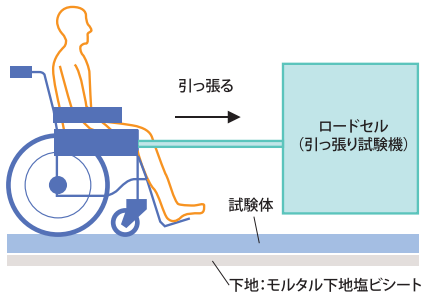
医療施設で活躍するストレッチャーや車椅子、レストランやホテルで使われるワゴン、荷物運び用はもとより、オフィス家具の脚部キャスターなど、あらゆるところで使用されている台車。これらを移動させるのにどれぐらいの力が必要かということは、日常の作業効率や利便性に大きく関係し、床材選びの大きなポイントとなっています。
 「超高密度植毛」のロボフロアーは、パイルそのものが直立性に富み、基布の「グラスファイバー」からなる、変形しにくい構造。全層が変形しやすい一般のカーペットと比べると、より少ない力で台車が動き、塩ビシート並みの移動しやすさが確保できます。

〈注意〉
 ●ワゴン・ストレッチャー・車椅子などキャスターにより荷重を移動させる際、斜行を起こす事があります。

車椅子走行性

下に示す検証結果は、車椅子がスムーズに移動する際の引張荷重を測定したものです。

■試験方法/アスワン独自の走行性試験方法



一般財団法人ケケン試験認証センターの協力によりアスワンが独自に検証しました。

- 車椅子 重量：15.2kg
 前輪：直径15cm
 後輪：直径57cm
 タイヤ幅：前・後とも3cm
- 試験者 体重：70kg
- 試験床材を平滑な床(モルタル下地塩ビシート張り)の上に置き、その上に前部にロープを取りつけた車椅子を乗せ、試験者(70kg)を着座させて、約30分後にゆっくりと引張り、動き出すときの力の大きさ(N値)を測定します。

■車椅子の走行性試験結果

商品名	全厚(mm)	動き出すときの引張り最大荷重					
		N値	走行しやすい ←				
			0	10	20	30	40
ロボフロアースタイル	5.3	35.5	[Progress bar showing 35.5N]				
ロボフロアースシート	4.3	39.6	[Progress bar showing 39.6N]				
一般ナイロンループタイルカーペット	6	36.6	[Progress bar showing 36.6N]				
医療用発泡複層ビニルシート	2	32.1	[Progress bar showing 32.1N]				
PVC特殊コンパウンド+ガラス不織布タイル	6.5	39.1	[Progress bar showing 39.1N]				
置き敷きビニル床タイル	5	30.3	[Progress bar showing 30.3N]				

※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。 ※N値が小さいほど走行しやすいことを示します。

耐動荷重性

パイルの単位あたりの目付重量が多く、繊維の1本1本に負荷が分散。
大きな荷重がかかる可動式観覧席床材にも対応できます。

病院や福祉施設には欠かせない温冷配膳車。大型の自走タイプの場合、重量は300kgを超えることもあります。4～6本の脚部キャスターにかかる荷重は60～90kgになります。このような配膳車にかぎらずオフィスの椅子、ホテルのワゴン、病院のストレッチャーなどは通常、いつも同じ軌跡をたどります。当然、この軌跡の部分の床材はすり減ったり剥がれたりすることが考えられます。
 床材の耐久性を検討する目安として、荷重性に対する強さも見逃せないポイント。単位あたりの目付が多い超高密度植毛のロボフロアーは、繊維1本1本に分散するため極めて負荷が小さくなり、抜群の耐久性を発揮します。

■厚さ減少率の測定

商品名	厚さ減少率	厚さ減少値	圧縮による厚さ減少率
ロボフロアースタイル	3.6%	0.2mm	1.1%
ロボフロアースシート	5.1%	0.2mm	1.6%

・動的荷重による厚さ減少率・減少値(JIS L 1021-7) 荷重:1kg/試験台回転数10000回
 ・圧縮による厚さ減少率(JIS L 1021-6)
 ※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。